

仏教文化研究所活動

◇ 日蓮宗・教学研究発表大会

第卅五回日蓮宗教学研究発表大会が、本学を会場として十月廿九日・卅日の両日に亘り、左記の次第並に研究発表者と論題もって開催された。

十月廿九日

- 一、開会式 司会 仏教文化研究所々長 町田 是正
- 一、法味言上 導師 身延山短期大学教授 林 是幹
- 一、挨拶 立正大学々園理事長 山内 堯文
- 一、挨拶 日蓮宗教務部々長 巽 寿円
- 一、挨拶 身延山短期大学々頭 里見 泰穂

○ 昭和五十七年度望月学術表彰

身延山短期大学教授 上田 本昌

○ 昭和五十七年度坂本仏教学々術表彰

東北大学教授 塚本 啓祥

一、研究発表

- 1、遺文に語られた救済の世界 伊藤 寛仁

- 2、立正安国論と現代社会 廣瀬 悦夫
- 3、『瑜伽師地論』有尋有伺等三地の研究——十六種異論に関する一考察—— 清水 海隆
- 4、備前牛窓本蓮寺の展開について 糸久 宝賢
- 5、日蓮聖人における即身成仏論の一考察 西片 元澄
- 6、身延山久遠寺歴代考——除歴日唱上人について—— 矢谷 恵法
- 7、観心本尊抄の「現三折伏一時成賢王」「行撰受一時成僧」の会通 早瀬 公人
- 8、日蓮聖人の報恩観 庵谷 行亨

(記念撮影)

午後の部(午後一時半より)

- 1、日蓮宗の千部会について 望月 真澄
- 2、日蓮聖人の『涅槃經』引用の一断面 関戸 啓造
- 3、立正観抄と法華問答正義抄 高橋 謙祐
- 4、楞伽經研究(一) 清水 要晃
- 5、十界構造論——信行形態の点検—— 服部 即明
- 6、法華經における「教主釈尊」の表現と仏教思想 林 円修
- 7、宗門の現状と課題——五十五年度宗務調査報告から—— 久住 謙是
- 8、幸田露伴の日蓮聖人観 石川 教張
- 9、不輕真師の久近本迹教相に就て 林 日邵

- 10、初唐における華嚴教学——法藏・慧苑・李通元
について—— 河村 孝照
- 11、身延山における日蓮聖人の救济 上田 本昌
- 一、懇 親 会

十月三十日（午前九時より）

- 1、日蓮聖人における下種について——「幼稚」の
解釈を手がかりとして—— 平島 盛雄
- 2、御遺文・注法華経に引用された大智度論について
- 3、日蓮聖人の罪認識 日種 崇人
- 4、近世初頭日蓮宗に於ける説教について 伊藤 慎一
- 5、本尊聖教録の記載内容について 寺尾 英智
- 6、法華信仰と落語「甲府い」 町田 順文
- 7、総と別の関係の一考察 芹沢 一男
- 8、統・不受流備・潮音寺日照について 藤崎 英正
- 9、初期日蓮教団における寺院の意義 井上 博文
- 10、日蓮聖人身延御入山のナゾ 山口 晃一
- 11、近世日蓮宗教学について 小野 文琬
- 12、朝師御書見聞の一考察 中条 暁秀
- 13、焰肩仏を手掛りとして 高橋 堯昭
- 一、閉会の辞 日蓮教学研究所長 宮崎 英修

○宮崎英修教授に依る閉会の辞は、本大会の総括講評であつて
発表論文三十二篇について、(1)宗学と宗学論に関するもの(2)日

蓮宗史と教学に関するもの(3)祖傳学・文献学的考証のもの(4)日蓮聖人研究のもの(5)仏教学関係のもの(6)応用宗学に関係するものに六分類されて、夫々に懇切な講評と教示を下された。本大会も年次を追って稔り大きい成果をあげているが、若い研究者の中には資料の蒐集の努力と、また資料(史料)の解釈に聊か考慮の足りない所も見られたとなし、資料の蒐集には脚で歩き汗を流す努力を怠ってはならないと、後進に対する教示をもって結ばれた。

◇同窓会全国総会の開催

身延山短期大学々同窓会全国総会(三年に一度)が、十月廿八日(木)本学を主会場として次の日程次第で開催された。
・午前十時より山梨県支部総会を開き、全国総会に臨む地元山梨県支部の立場の確認と、役員の改選を議したが全員再任された。
・午前十一時より同窓会本部役員会を開き、全国総会議事進行等を談合した。
・午後一時より久遠寺仏殿に於て、同窓物故者の追悼法要を慶修。大導師を副会長松井大周・副会長新川日見の各師が勤められ、会員一同衷心より冥福を祈念した。
・午後二時より合併教室に於て総会に入る。

司会

幹事長 長谷川 寛 慶

一、玄題三唱

一、開会の言葉
一、会長挨拶

副会長 松井大周
會長 灘上惠教

一、本山代表挨拶

久遠寺庶務部長 秋山智孝

一、学園代表挨拶

身延山短期大学々頭 里見泰穂

。感謝状の贈呈：本学図書館に多額の図書を寄贈された次の各氏に対して、本短期大学長法主猥下御署名の感謝状を贈呈して学園一同謝意を表した。

鎌倉新書社長 住田孝行

東京都陽連院 新川日見

千葉県経蔵寺 長瀬貫公

東京都本久寺 持田貫宣

東京都明光教会 室田日孝

東京都護国立正教会 久本信明

東京都感応寺 新井貫厚

徳島県妙永寺 児島鍊戒

静岡県本光寺 大石要英

富山県真成寺 谷川寛徳

茨城市妙徳寺内 原光可

。学園教職員永年勤続表彰：總會の席に於て永年学園に奉職して宗門子弟の教育に尽粹された次の各先生方に対して、短期大学長・法主猥下の御染筆に成る一遍首題と色紙とが、学頭によって手渡された。

三十年表彰

教授 長谷川義浩

二十年表彰
二十年表彰
二十年表彰

助教 一宮嘉孝
講師 長谷川寛勝
教諭 角田義尊
義護教諭 筒井妙清

。總會議事：座長・副会長 小崎竜雄



(写真は里見学頭より永年勤続表彰をうけとる諸先生方)

(1)経過報告：幹事長 長谷川寛慶、(2)庶務報告 幹事 上田本昌、(3)会計報告 幹事 町田是正、(4)監査報告 監事代表 清水本成、(5)任期満了に伴う本部役員改選：次の各師が新に選任された。

最高顧問

身延山久遠寺法主 竹下日康
身延山短期大学長

学 監

身延山久遠寺総務 岩間湛良
身延山短期大学理事長

学 頭

身延山短期大学教授 里見泰稔
横浜市善行寺主

顧 問

和歌山市報恩寺主 灘上恵教
身延山短期大学教授

同

埼玉県志木市 新川日見
身延山短期大学教授

同

身延町智寂坊主 池上要輝
身延町端場坊主

同

三島市妙法華寺主 松井大周
身延町端場坊主

同

静岡県本光寺主 岩田日成
身延町円実寺主

同

金沢市蓮覚寺主 大石要英
身延町大善坊主

同

長谷川寛慶
身延町大善坊主

(6)その他の議事：学園図書館の図書献本運動の推進と新図書館(研究所・研究室併設)建設が提案され、熱心に討議されて実現に邁進することが議せられた。

一、閉会の言葉

新顧問 新川日見

一、玄題三唱解散(直に叙勲祝賀の宴に入る)

◇里見・林両先生叙勲祝賀会

同窓会全国総会終了後、午後三時三十分より、短大一階会議室に於て、里見泰稔先生勲四等瑞宝章受賞、林是幹先生勲五等双光旭日章・法務大臣表彰・藍綬褒章の受章をお祝いして、同窓諸師と学校教職員による祝賀パーティーが盛會裡に次のように進められた。

(1)開会の言葉

同窓会副会長 岩田日成

(2)両先生叙勲経過報告

身延山短大教授 町田是正

(3)祝辞

身延山久遠寺庶務部長 秋山智孝

(4)お祝花束贈呈

身延山短大職員 志村恵美子

(5)お祝記念品贈呈

同窓会副会長 大石要英

(6)里見・林・両先生より謝辞

同窓会副会長 大石要英

(7)祝意の乾杯発声

同窓会顧問 深沢義雅

(8)参会者よりお祝いのスピーチ

同窓会顧問 深沢義雅

(9)万才三唱発声

同窓会顧問 灘上恵教

(10)閉会の言葉

同窓会副会長 小崎竜雄

◇ブリティッシュ・コロンビア大学教授

飯田昭太郎氏の講演

昭和五十七年四月十三日、飯田昭太郎氏による「囲みを破って」と題する学内講演会がもたれ、氏の学的遍歴の半生を語つ

た。氏は本学の前身である身延山専門学校を卒業し、東北大学に進み、更に米國に渡りウィスコンシン大学 (Wisconsin U.) を卒業された。

飯田氏の「囲みを」破る第一歩は、昭和十九年春、身延山専門学校に於ける坂本幸男先生の集中講義の中で、「将来の仏教学の勉強は梵語・西蔵語・巴利語・漢語の四つを修得しなければ大成しない」との言葉に示唆されたと云う。仏教学研鑽の刺激を受けた飯田氏は、東北大学に於て、梵語を金倉円照教授・西蔵語を波多野先生・巴利語を山田龍巖先生・英語を英人教師から指導を受け、更に囲みを破るべく、米國に渡りウィスコンシン大学でウェーマン教授から西蔵語の指導を受け、更に一九六五年学位論文執筆のため印度に渡り、北部ダルマ・サーラに於て約二ヶ月間、中観派 (Madhyamika) の研究を梵蔵漢巴独自の五ヶ國の文献を比較訳読しながら論文の骨格をまとめたといふ。その結果、仏護 (Buddhapalita) の系統の "Prasastika" と、清弁 (Chavaviveka) の学派の "Satantrika" に研究のメスを入れ、七世紀の教勢を高めた月称 (Candrakirti) に至る系統を五ヶ國語の文献を比較対照しつつ一書をまとめ学位請求論文とした。その結果、カナダのバンクーバーに在る「ブリティッシュ・コロンビア大学」の正教授の地位を得て、今日に至ったと云うのである。

※米國・ドイツの大学で正教授の地位を得ることは非常に難事であるが、飯田氏は見事に成し遂げた。

また飯田氏は一大事業を企画した。即ち、一九七〇年日本万国博覧会のパビリオンの一つ・「三洋館」を「昭和苑」(U・B・C)として、コロンビア大学構内の新戸部稲造日本庭園の前に移して建立することであった。その為め、再三、日本に来て日本経団連のトップと交渉し、輸送費一六〇万ドル(三億五千万)と再建築費三五〇万ドル(八億円)を捻出し、見事一九八一年これを完成開館し、時の外務大臣大来三郎及び大森総領事の出席を得て祝賀したといふ。

飯田氏の半生は、学問の世界に於て、また三洋館を海の彼方に移すという、スケールの大きい事業と云い、常に現状を打ち破り前進してやまない半生であつて、その講演は学園生に多大の感銘を与えたようである。遙かに飯田先生の学的御健斗を祈つてやみません。

◇新刊紹介

◎上田本昌著『日蓮聖人における法華仏教の展開』(昭和五十七年度望月学術賞受賞)

本書は第一編「日蓮聖人における信行証の研究」・第二編「日蓮聖人の教学における諸問題」・第三編「日本文学史上に現われた法華経と日蓮聖人」の三部から成り、四百六十頁余に亘る大著である。本書は著者自らの信念の披瀝であり宗徒に対する信行への勸奨の書でもある。その論の組立てと論述は極めて精緻であり、教授の学問的情熱と人柄を偲ぶことが出来る。殊

に第三編は著者の永年に亘る俳諧文学の研鑽を踏えた論究であり、その文脈からあふれ出る法華信仰への呼びかけは、読者を魅了してやまないであろう。詳しい内容については、本誌の奥野本洋講師による書評を参照されたい。

A5版・四六三頁。

平楽寺書店刊 価七、五〇〇円

◎上田本昌著『日蓮聖人の救済観』

本書は学術書ではない。しかし日蓮聖人が仏使上行の自覚のもとに末法の法華経の行者として活動された生涯を、学問的基盤に立って平易に紹介され、そこから「現在を救済」する教えを説き明している。日蓮宗徒の今日的課題にこたえる一書として、大方に購読を勧めるものである。

B6判・二二九頁

光書房刊 価一、二〇〇円

◇本55号執筆者紹介（掲載順）

上田本昌 本学教授 日蓮教学・祖哲学
中條 暁秀 本学講師 日蓮教学・祖哲学
町田 是正 本学教授 中世日本仏教思想史
望月海淑 本学教授 仏教学・梵文学
高橋 鸕 本学教授 哲学・東西比較思想史
若杉 見竜 本学教授 天台学・中国仏教史

中里 悠光 本学講師 法学・現代文明論
奥野 本洋 本学講師 天台学・祖哲学
大森 孝 本学教授 英語学・英文学

学会活動報告

○日本仏教学会

昭和五十七年度学術大会は、九月十日（金）・十一日（土）の両日にわたり、「仏教における正と邪」を共同研究課題として、東洋大学白山校舎（東京都文京区）において開催され、本学の桑名貫正氏が研究発表された。

日蓮聖人の破邪顕正について

桑名 貫正

○日本印度学仏教学会

第三十三回学術大会は、十月十六日（土）・十七日（日）の両日、駒沢大学（東京都世田ヶ谷区）において開催され、本学の中條暁秀氏が研究発表された。

行学日期における一考察

中條 暁秀

○日蓮宗教学研究発表大会

第三十五回日蓮宗教学研究発表大会は、十月二十九日（金）・三十日（土）の両日、本学を会場として開催された。本学の研究発表者は左の三氏であった。

身延山における日蓮聖人の救済

上田 本昌

朝師御書見聞の一考察
杓肩仏を手掛りとして

中條 曉秀
高橋 堯昭

◇学内研究会◇

本研究会も満七年を数え、左記の如く実施された。

◇第四十九回（五月二十八日）

衆生済度の一考察

教授 上田 本昌

◇第五十回（六月二十八日）

◇曼荼羅について

講師 桑名 貫正

◇第五十一回（七月十七日）

羅什三蔵旧跡頭彰訪中報告

教授 若杉 見竜

◇第五十二回（九月二十九日）

言語とマップ

教授 大森 孝

◇第五十三回（十一月二十六日）

本願について―開目鈔を中心として―

教授 望月 海淑

◇第五十四回（一月二十八日）

破和合僧について

◇第五十五回（二月二十六日）

憲法第九条について

講師 望月 海英

◇第五十六回（三月十五日）

「身延山高座石」歴代譜について

講師 中里 悠光

◇昭和五十七年度卒業論文論題

論 題

学生氏名

指導教官

行学院日朝上人について

飯沼 良浩

中條 曉秀

駿河における日蓮教団の展開

池田 明真

若杉 見竜

宗祖入滅後の六老僧の動向について

石井 一教

堀 一勇

宗祖の法難観

川原 倅督

中里 日悠

日蓮聖人と南部一族

貴島 淳一

林 是晋

日蓮聖人と檀越―特に富木氏を忠として―

木下 性俊

奥野 本洋

清正公信仰について

佐々木 浩文

長谷川 寛勝

九州における日蓮教団の展開

下田 道成

里見 泰穂

日蓮聖人の信仰について

高橋 誠昌

上田 本昌

身延参詣についての研究

新田 教順

高橋 堯懸

法華経における菩薩行の研究

藤村 佳樹

望月 海英

久遠成院日親上人―その国家疎略と時代的背景

法華經における信の研究	松本 恵昌	町田是正
日隆上人と八品門流の展開	細川 泰幹	望月海淑
日持上人の海外布教について	横井川法光	林 是晋
不受不施についての一考察	太田 一誠	堀 一勇
仏陀伝の一考察	児玉 量顕	林 是幹
	田村 玄昭	桑名貞正

◇図書館だより

「一人一冊」の献本運動をお願いしましたところ、全国の同窓生諸賢より、続々と献本される方々がふえ、図書館も逐次蔵書の数を増加させております。献本下さった各位に有難く厚く御礼を申し上げます。

さて、身延山当局では、学校の図書館建設に熱意をもたれ、新本堂の完成後は、図書館を建設する意向を持っていました。去る五十七年二月廿六日に開かれました学園の理事会でも、図書館建設の議題が提案され、本山の新本堂が建築完成したのちに、図書館を建築することになり、建設敷地や規模について、調査・研究することになりました。

その後の教職員会議でも、この理事会の意向を受けて、なるべく早い時期に、図書館を建設していただくよう、身延山当局へお願いすると同時に、同窓会にも呼びかけて、協力していただくことになりました。

いよいよ待望の図書館を建設する運びとなりましたが、建設に着手するまでには、まだ時間があります。しかし、図書館建設という明るい希望がもたれるようになったことは、有難いことです。同窓・有縁の各位には、今からご協力下さいませよう宜敷お願い申し上げます。

現在、図書館では館長を含めて、三人の職員が、授業のあい間をみつづ業務を行っております。本年四月に学内の人事移動に伴い、従来の志村英美子司書は経理課へ移り、新しく今村紀子司書が就任しました。

昭和五十七年度寄贈図書状況（58年1月31日現在）

「一人一冊」の献本運動に呼応されて、東京支部長・新川日見師より、個人の蔵書、

「日蓮聖人研究」等

二、八八五冊

レコード 一一一枚、新聞切抜等、多数の献本を賜われました。その上、東京支部長として献本運動を展開され、同窓生並に有縁の方々には呼びかけられました。その主な内訳は、

東京都	長瀬貫公師	短歌・歌集等	六〇七冊
同	持田貫宣師	国訳大藏經等	九四七冊
同	室田日孝師	日蓮宗説本等	四〇三冊
同	久本信明師	大日本仏教全書等	三七六冊
同	新井貫厚師	青苑等	一六七冊
同	荒木義栄師		一三冊

東京都 今井是観師

五三冊

金子善英師

三九冊

千葉県 甲州誠祐師

三五冊

合計

五、五二五冊

故昇塚清研師 大日本地名辞書等

四〇〇冊

富山県支部長谷川寛徳師

日蓮主義教学大観等

一一七冊

児島錬戒同研究会副会長（徳島市妙永寺）

四国霊場の秘宝等

三七冊

北沢光昭師（北海道札幌市光徳寺内）

日蓮教学の思想史的研究等

一七七冊

東京支部宮川了篤師を通じて

株式会社鎌倉新書殿より仏具大辞典等

一八冊

京都の三木浄達師より、著書『蓮華人』を寄贈いただきました。

竹岡智宣師（柏崎市妙広寺）日蓮聖人全集全七巻

以上 総計 六、二五〇冊。

そのほか、

大阪府茨木市 原 光可師

二〇〇万円相当

静岡県 大石要英師

五〇万円相当

の贈呈を受けております。

献本運動に御高配と厚志を賜りました諸氏に衷心より御礼

を申しあげます。

上記の他に、

富山市本証寺校榮錬静師の「御鏡譚」より一〇〇万円。東京都田無市日慈教会の多田慧光師より五万円の図書館建設資金が寄附されました。

計 報

身延山短期大学前学頭・室住一妙先生には、昭和五十八年一月二十四日・永眠された。先生には本学園に教鞭を執ること三十有余年。この間身延山久遠寺身延文庫調査主任として、古文書の発掘に寄与された。先生の所謂・純粹宗学の学恩をうけた宗門子弟は幾百人であろう。記して先生の増円妙道を祈ります。

○法号 一妙院日孝上人

○単学園葬 昭和五十八年二月二十四日

午後一時（身延山短期大学講堂にて）